

教科書を比べてみましょう！！

文科省の検定を通った教科書でも内容が大いに違います

国旗・国歌について、公民教科書の一部を比べてみましょう

国旗と国歌（東京書籍 新しい社会 公民 151頁の記述）

主権国家は、国家を示すシンボルとして、国旗と国歌を持っています。1999年に法律で「日章旗」が国旗、「君が代」が国歌と定められました。国どうしが尊重し合うために、たがいに国旗・国歌を大切にしていかなければなりません。

問題点

中学校で最も多く使われている東京書籍の「国旗と国歌に関する記述」がたった3行しかないことが大きな問題である。

国旗・国歌の成り立ち、意味、を子供たちに教えていないから、いかなる場合に国旗を掲揚し、いかなる時に国歌を演奏しなければいけないのか、子供達が知らないわけである。

スポーツの国際試合等の際、君が代が演奏されても歌ってない選手が多いのは学校の授業で教えられていないからである。

国旗と国歌を考えてみよう（自由社 新しい公民教科書 146～147頁の記述）

国旗が揚がり、国歌が演奏されるとき、多くの国では、だれもが起立して姿勢を正している。国旗・国歌に敬意を表すことを憲法で定めている国もある。なぜなら、国旗と国歌は、その国の「建国の由来、国家の目標、宗教、伝統、文化、性格、国民の願い」などを表すとともに、あらゆる場面で国の「独立・主権の存在」を示しているからである

国際人として心がけなければならないことは、外国の国旗・国歌にも敬意を示すことである。外国人も自分たちと同様に自国の国旗・国歌に誇りをもっているからだ。諸外国では、こうした国際社会のマナーを幼少のときから家庭や学校でしっかりと身につけさせている。（後略）

重要点

自由社の公民教科書では2頁に渡って国旗・国歌の成り立ち、意味を丁寧に教えている。コラム欄でも「日章旗の意味、君が代の意味」「国旗掲揚の国際儀礼」を分かりやすく説明し、更に147頁では「どこの国の国歌だろう？」という題名でイギリス、韓国、アメリカ、フランスの国歌の和訳が記述されており、君が代と対比させている。

子供達にはこういう記述によって、国旗・国歌の重要性を認識させることが必要である。

以上は、教育現場を独占する「自虐教科書」と「自由社教科書」（つくる会）の比較の一例です。自虐教科書を追放し、誇りある日本人として子供達が育って行くように活動を続ける「つくる会」を、ご支援くださるようお願い致します。ご入会を歓迎いたします。

新しい歴史教科書をつくる会